学習内容報告書 フォーマット

学校名	沖縄県恩納村立安富祖小学校
授業者	教諭　白石晃一

1.　単元計画

１．学習してきたことをもとに自分達の考えを整理しよう

・シンキングツールを活用して、これまでの学習から出た考えや主張、疑問などを話し合い、整理する。その中で「私たちにできること」のテーマで考えをまとめる。

※タブレットアプリのロイロノートのシンキングツールを活用して話し合い活動に取り組んだ。

２．調査探究活動のまとめをしよう

・学習したことや自分たちの主張をポスターにまとめる。

・これまでの行事や他教科で調査観察したデータをもとに発表資料を作成する。

３．情報を発信しよう

・「私たちにできること」で考え、調べたことをポスターセッションで発信する。

※今年度は､学校ホームページと YouTube を活用してポスターセッションを配信することができた。

別教科

図工・・伝え合うものをつくる：漂着ごみで表し方を工夫して友人や学校に訪れた人に自分たちの考えをプレゼンテーションする。

1-1.　単元名

海の豊かさを守ろう～私たちにできること～

1-2.　学年

６学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、国語、図工

1-4.　単元の概要

本校は、校舎裏にきれいな砂浜とサンゴ礁が広がる学校であり、他にも県民の森や恩納岳など県内でも有数の大自然に囲まれている。これまでも、この豊かな自然環境を活かし、教育活動に取り入れてきた。その活動として、浜下り行事での潮干狩りや海岸清掃を全校児童、教職員、保護者で行ってきた。浜への漂着ゴミやマイクロプラスチック問題、SDGｓや軽石問題など、環境について考える機会が多くなり、児童の環境問題への関心も高まっている。そこで、季節的な行事であった浜下りをもとに、総合的な学習を中心に環境教育の単元づくりを進めていくことを目標とした。また、その学習の補助活動として OIST 沖縄科学技術大学院大学と共同した「サンゴ学習」を計画し、恩納村の海の自然環境について学習を深めた。そして、学習したことを活用して新聞やポスターとしてまとめ、学習発表会などで学習成果を発表したりすることで「海の豊かさを守ろう」という思いを共有し､「私たちにできること」として新たな考えを創造することを目指した。浅瀬での生き物観察やカヌーでのサンゴ観察、漂着ごみを使った工作、大学院大学との関わりなど、行事や教科を横断的合科的に組合わせ、実践と体験を生かして学習できるよう計画をしてきた。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

熱田の浜の自然環境について調べたことをもとに、問題点やその原因について話し合う中で「私たちにできることはないか」と自分の生活へ学びを広げることができた。そこで「私たちにできること」というテーマで調べたことをまとめたり、自分たちの主張を発表したりすることで、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力を育むことができると考え、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

これまでの体験的な学習のまとめとして本単元を設定することで、児童が学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組んでいける態度を育てていきたい。

1-7.　単元の展開（全１１時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	１．学習してきたことをもとに自分達の考えを整理しよう ・シンキングツールを活用して、これまでの学習から出た考えや主張、疑問などを話し合い、整理する。 ・「私たちにできること」のテーマで考えをまとめる。 	・これまでの学習を振り返る。（写真、動画） ・シンキングツールの活用方法指導 （フィッシュボーン・ウェビング） 【評価】 ・話し合ったことをもとに、自分たちの生活の中で取り組めることについて考えている。
5	２．調査探究活動のまとめをしよう ・学習したことや自分たちの主張をポスターにまとめる。 ・これまでの行事や他教科で調査観察したデータをもとに発表資料を作成する。	・ロイロノートを使い、共有ノートで制作する。 ・調査したデータや収集した画像資料を活用する。 【評価】 ・必要な情報を取捨選択しながら集めることができる。
2	３．発表資料をもとに発表方法を工夫しよう ・ポスターセッションの進め方について話し合い、練習をする。	・電子黒板の活用
2	３．情報を発信しよう ・「私たちにできること」で考え、調べたことをポスターセッションで発信する。	【評価】 ・事実を整理し、自分の考えを交えながら発表することができる。 ・他の考えを聞き、自分の考えと比較しながら考えを深めることができる。

2.　学習活動の実際

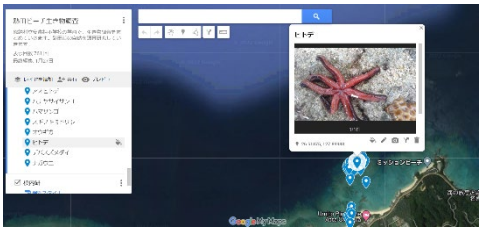
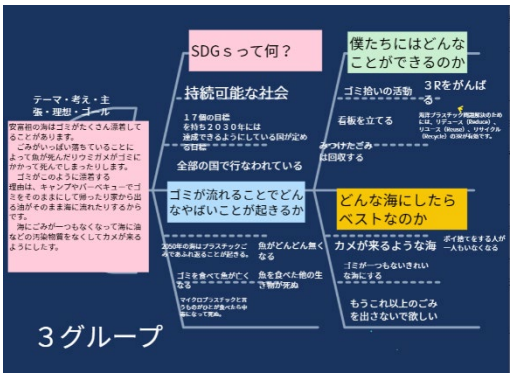
2-1.　単元における位置づけ

単元　１１　時間中の　２　時間目

2-2.　本時の目標

これまでの学習記録を振り返り、海の豊かさを守る取り組みについて私たちにできることはないか話し合い、考えをまとめることができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１．シンキングツールを活用して、これまでの学習から出た考えや主張を出し合う。 ・漂着ごみが流れ着いて生き物へ被害が出ている。 ・マイクロプラスチックが生き物へ害を出す。 ・ビニールや漁網などでウミガメが苦しんでる。 ・サンゴが減ると津波の被害が大きくなる。 ・熱田の海は生き物の宝庫なので守りたい。 	・シンキングツールで考えを貼り付ける。 ・共有ノート機能を活用して紙に付箋紙を張るようにタブレットを活用する。 ・考えや主張を仲間分けしながら、過去の資料とともに整理していく。 ・貼られたものを見ながら、自分の考えと比較しながら深めていく。
３．私たちにできることのテーマで考えをまとめる。  	・フィッシュボーンに考えをまとめる。 ・私たちにできることと、話し合った環境の課題や問題点がリンクしているか助言する。

3.　今回の活動の自己評価

これまでの学習を振り返り、自分たちが調査観察してきたデータをもとに考えることで、主体的に、自分事として環境問題を捉え、話し合いを進めることができた。また、これまでの学習で、サンゴの観察や漂着ごみの調査、軽石除去作業など、身近な自然を活用し、体験的に進めてきたことも学習意欲の向上と主体的に考えることにつながった。さらに、OIST 沖縄科学技術大学院大学との学習をもとに、探究活動を進めてきたことも、児童が環境問題を自分事として捉える良い一因になった。

ICT を活用し、データを蓄積することで学習を想起したり、考えの根拠として提示することができたりし、良い活用をすることができた。共同編集ノートを使った話し合い活動（シンキングツール）でも付箋紙だけではなく動画、ホームページの貼り付け共有など幅広い活用方法が児童の中から生まれたことも成果につながった。

4.　今後の課題

今回は、情報発信の方法とし学校ホームページでの動画公開を行った。まとめたポスターや新聞を使い、ポスターセッションでの発信とした。次年度は、スライド資料にまとめたり、動画にまとめたりと幅広いまとめ方を検討していくことも必要であると感じた。

情報活用スキルを学年ごとに系統立てて指導していくことも必要であると感じた。他学年とのつながりも意識しながら次年度の計画に生かしていきたい。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・安全面での配慮が重要。（危険生物の指導：海の危険生物リーフレットの活用）
・漂着ごみ調査での危険ゴミの周知が必要。（医療廃棄物、蛍光灯、燃料容器など）
・情報発信時における情報モラル指導が必要。
　（個人情報の取り扱い、著作権問題など）